

刺さない鍼の臨床試験 —パイロット・一重マスク・ランダム化比較試験—

Contributed report

Clinical study of non-inserting acupuncture: Randomized single-blind, placebo-controlled trial

くわばら ともこ 桑原 知子 KUWABARA Tomoko¹⁾, なかの たかゆき 中野 貴之 NAKANO Takayuki²⁾

1) 大阪医療技術学園専門学校, 2) 金沢医療技術専門学校

現在、多くの医療現場で治療に使用されている鍼といえば大部分が毫鍼で刺す鍼が中心である。今後刺さない鍼の研究を進めていくことは、鍼灸師の手技範囲を広げるのに特に重要と考え、今回、鍔鍼の臨床試験を行うことにした。まずは小里式鍔鍼の偽鍔鍼を作成し信憑性テストを行ったところ、偽鍔鍼は見破れないという結果となり、次に偽鍔鍼を用い探索的なランダム化比較試験を行った。サンプル数が少ないため効果量を求めた。結果、効果量=0.33となり、偽鍼群のほうが真鍼に比べ中等度より少ない効果があった。試験感度を改善することにより効果量は変化する可能性がある。そのためには今後、検証的なランダム化比較試験が必要である。

はじめに～本臨床試験の目的～

現在、多くの医療現場や学校教育で治療に使用されている鍼といえば大部分が毫鍼で、刺す鍼が中心である。

『黄帝内経・靈枢』九鍼十二原篇では、「九鍼」といって鍼が9種類に分類されていて、更にその9種類を「破る針」、「刺す鍼」、「刺さない鍼」の3種類に分類している。「破る鍼」は膿を出すなど現在の外科手術にあたり、鍼灸師の手技の範囲より外れている。このように『黄帝内経』では9種類紹介されているにもかかわらず、なぜ刺さない鍼があまり使われていないのだろうか。

刺さない鍼の技術が向上すれば、近年増加傾向にある悪性腫瘍や、先端恐怖症、鍼刺激を好まない患者に対しても安心して使用することができる。この他には美容鍼灸の分野においても内出血のリスクを伴わないという点で特に有用である。2000年と2005年に行われた意識調査では5割以上の人が、鍼は「痛そう」「怖い」と答えており^{1) 2)}、

鍼灸 109
ISSN 1340-6280, Shinkyū Osaka
Vol.29 No.1/2013, Spring

OSAKA

Osaka Journal of Clinical
Acupuncture & Moxibustion

特集 がんへのアプローチ

座談会 「がん患者の求めるもの、医療者そして鍼灸師のできること」

ア・ラ・カルト

寄稿 妻保 徹 がん発生の機序と免疫系への鍼灸の有効性
家本誠之 古典に見る「癌」の記載

レポート&ミニインタビュー 松本岐子/仙台塾

書評 「七星論入門」

連載 海外鍼灸事情 カリフォルニア/USA®

鍼灸技術の構築に向けて2

「東京大学医学部附属病院リハビリテーション部鍼灸部門」

栄養学のはなし 身近に!漢方 プレイクタイム